

# 能の道具

能の道具の名前、どういうふうに使われるか。

## 扇

扇は、日本人が作り出した舞台小具の傑作と言われている。

単純な形だが使い方をかえるだけで色々な物に例えられる。

扇には種類がある。大きく分けて、「ちゅうけい、しずめおり」

この二つの種類に分けられる。

しょうぞく装束を着た役者を基本的に、ちゅうけいを持ち、それ以外の地うたい・後見・仕舞・舞啐子のシテはしずめおりを使う。白骨には神扇・男扇・じょう扇。扇の先を強く押し鎮めた形をしているため呼ばれる。本来しずめおりには決まった図柄は数えるほどしか無かった物ですが、近來アマチュアの発表で使うためのちゅうけいの柄が作られ、また流儀ごとに決まりがあります。



## 能面

おきな系 肉式尉(にくしきい)

能面の中で初めに作られた面。天下が疫病や飢、菌が発生した時この面で舞ったところ治まったという。

おんりょう系 般若(はんにゃ)

おんりょう面は、字の通り、うらみをもって、生きている者にわざわいを与える死霊、生霊。



## 楽器

能管は能楽はやしで使われるゆいいつの吹奏楽器。

小鼓(こつづみ)は表と裏の二枚の革の間に、中央がくびれた形。

大鼓(おおつづみ)も小鼓とほぼ同じ形。

締太鼓(しめだいこ)は、二本のバチで打って、調べ緒(いとぐち)で締め上げて、組み上げる。

